

那覇市在宅医療・介護連携推進事業 在宅医療同行訪問研修報告

氏名：中山 亜紀（看護師）

所属施設：那覇市立病院

分野	訪問診療
実施日時	令和7年11月19日（水） 9時00分～12時30分
研修先	はいさいクリニック 石田 医師、川上 看護師
実施報告	<ul style="list-style-type: none">・抗菌薬や麻薬など、あらゆる薬剤が準備されている。退院後も必要な薬は、取り寄せて投与することができる。・ポータブルタイプのエコーや胃瘻のチューブ交換に使用する機械、創傷処置システムなども準備されていた。・今回、午前中の研修で、医師1名と看護師1名で6件回っていた。移動時間の無駄のないように、近い距離や交通状況を考慮して訪問している。・訪問診療が作成した申し送りの用紙を使って、家族や訪問看護とやり取りをしていて、ACPに関する事も記録されていた。・患者1人1人に丁寧に対応されていた。・患者も家族も、先生の声かけで安心した顔をされていた。・患者だけでなく、家族の体調を気遣い、アドバイスされていた。・家族と同居している方だけではなく、ほぼ独居の状態の方まで対応していた。・診療介入の依頼の時は、診療情報提供書や採血データ、看護サマリーなどの書類以外に、別紙などで患者さんのことが分かるように情報を伝えることが、スムーズな調整につながる。
研修を終えて	<ul style="list-style-type: none">・薬剤・物品・機材が何でもあって、在宅で何でもできることが分かりました。胃瘻の交換については、自分の知識をアップデートできました。いろんなことが進んでいて、在宅でできないことはほとんどないんだと分かりました。・施設で認知機能低下のある大きな声を上げる入所者がいらっしゃいました。先生が方言で一生懸命コミュニケーションを取ろうとされて、患者さんもそれに応えるような反応をされ、その場で病名まで分かってしまいました。先生の、患者さんと一生懸命コミュニケーションを取ろうとする姿や施設職員とのコミュニケーションを見ると、信頼関係と生活の場で診てもらう安心感を体験できたと思います。

研修を終えて

・午前中で6件も回ったとは思えないほど、しっかり話を聞いて、説明や家族指導をされていたので、時間があっという間でした。先生と看護師の連携が流れるように無駄がなく、スムーズでした。私は看護師なので、看護師目線でみると、今の自分だったら看護師の方のこの動きはできないだろうと思いました。

・当院の先生方にも、是非研修に行ってもらいたいです。訪問診療の実際をみたら、どのように連携した方が良いか、何を行なってもらえるのかが分かります。若い先生だけでなく、ベテランの先生方にも研修に行ってもらいたいです。